

ともにつくろう みんなの夢大地

さらべつ議会

発行／更別村議会 編集／議会運営委員会



12月18日、更別中央中学校3年生の皆さんのが社会科授業の一環として議会を訪問し、自分たちで考えた村の活性化に向けたアイディアを議員に発表しました。

中学生が村の活性化策を提案

2025
2
Vol.191

- 第4回定例会、第1回臨時会、審議結果 P 2～4
- 一般質問～5人の議員が登壇 P 5～11
- 委員会レポート P 12～13
- 中央中学校3年生議会訪問 P 14～15
- 議会日誌 ほか P 16

議員発議

議員が長期欠席した場合に
議員報酬を減額する規定を追加

議員報酬等条例を改正

第4回定例会



令和6年第4回定例会は、12月11日から17日までの7日間の会期で行われました。開会日の11日は、承認1件、条例の改正5件、一般会計ほか5特別会計の補正予算とともに、発議1件が審議されました。最終日の16日は、5人の議員が6項目の一般質問を行い、村長の見解を質しました。提案された議案等はそれぞれ可決され、会期を1日残して閉会しました。

- ### ■専決処分の承認
- ▼一般会計補正予算（第4号）の専決処分の承認

衆議院解散に伴い、衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査を実施するため、専決処分により緊急に予算を補正したことから、議会の承認を求めるものです。
 - 補正額
470万7千円
 - 補正後の予算額
60億8012万5千円
- ### ■条例の改正
- ▼印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定

印鑑登録者本人が印鑑登録証明の交付を申請する場合に、マイナンバーカードの提示により交付を可能とするなど、利便性の向上を図る規定を追加するものです。
 - ▼手数料条例の一部を改正する条例制定

戸籍法等の一部改正に伴い、戸籍電子証明書提供用識別符号（パスワード）及び除籍電子証明書提供用識別符号を、村が発行した際に係る手数料
 - ▼印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定

印鑑登録者本人が印鑑登録証明の交付を申請する場合に、マイナンバーカードの提示により交付を可能とするなど、利便性の向上を図る規定を追加するものです。
 - ▼手数料条例の一部を改正する条例制定

戸籍法等の一部改正に伴い、戸籍電子証明書提供用識別符号（パスワード）及び除籍電子証明書提供用識別符号を、村が発行した際に係る手数料
 - ▼重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定

各条例で定める福祉医療費の助成を受給される方が医療機関等を受診する際に、被保険者であることについて、原則としてマイナ保険証（健康保険証の利用登録が行われたマイナンバーカード）により確認をするよう改めるもので

補正予算

1/7

第1回臨時会

▼一般会計補正予算並びに特別会計補正予算

認定こども園どんぐり保育園の入所者の増加に伴う給付費等の増額や、リサイクルセンターに搬入される資源物（木くず等）の増加に伴う運搬・処分料の増額、及び各種工事・委託業務等の事業完了に伴う執行残の減額等を主とする、一般会計並びに特別会計の補正予算が提案され、それぞれ原案どおり可決されました。

令和7年第1回臨時会が1月7日に行われました。提案された議案は、原案どおり可決されました。

▼議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定

議会議員の期末手当について、国家公務員に準じた支給割合に改正するものです。

▼特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例制定

公務員に準じた支給内容に改正するものです。

特別職の職員で常勤のもの期末手当について、国家公務員に準じた支給割合に改正するものです。

▼職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定

公務員に準じた支給内容に改正するものです。

▼一般会計補正予算並びに特別会計補正予算

物価高騰の影響が大きい低所得者世帯に向けた給付金、及び長期的な燃油高や物価高騰の影響を受ける村民等への生活支援として、村内で利用できるクーポン券の発行・配付に伴う増額、並びに給与改定に伴う職員等人件費の追加を主とする、一般会計並びに特別会計の補正予算が提案され、それぞれ原案どおり可決されました。

議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の改正について

この条例改正は、議員が自己都合や疾病等の理由により議会の会議等を長期間欠席した場合に、報酬等を減額する規定を新たに整備するもので、第4回定例会に議員発議により提案され、原案どおり可決しました。

過去には他の自治体議会において、長期欠席議員に報酬が支払われていた事例があり、議員の職責及び村民の皆様への信頼確保の観点から、条例の改正が必要と判断し、本村議会においても協議を重ねてきたものです。改正の要旨は次のとおりです。

■長期欠席期間と減額割合

- ・180日以上365日未満→報酬月額の100分の25
- ・365日以上 → 同 100分の50

■期末手当は、基準日現在の報酬月額に応じて減額

補正予算の内訳

(単位：万円)

令和6年第4回定例会			補 正 額	補正後の予算額	主な増減内容
一般会計（第5号）			7,679	61億5,691	<ul style="list-style-type: none">・どんぐり保育園入所者の増加に伴う給付費等の増額・持続的畑作生産体制確立緊急支援事業補助金の増額
特別会計	国保会計	事業勘定（第3号）	5	5億8,996	・保険基盤安定繰入金等（歳入）の確定に伴う減額
		診療施設勘定（第3号）	46	4億320	・電子処方箋導入業務委託料等の増額
		後期高齢者医療事業（第1号）	△437	6,355	・後期高齢者医療広域連合納付金の減額
		介護保険・事業勘定（第2号）	1,166	4億2,896	・介護サービス（住宅・施設）給付費の増額
		簡易水道事業（第2号）	△71	3億3,400	・企業債利息の確定に伴う減額
		公共下水道事業（第2号）	△44	3億3,665	・企業債利息の確定に伴う減額

令和7年第1回臨時会			補 正 額	補正後の予算額	主な増減内容
一般会計（第6号）			1億7,648	63億3,340	<ul style="list-style-type: none">・物価高騰支援給付金（非課税世帯へ給付）の増額・商店街活性化事業助成金（クーポン券配付）の増額・寄付金管理基金積立金（ふるさと納税）の増額
特別会計	国保会計・診療施設勘定（第4号）		509	4億830	<ul style="list-style-type: none">・給与改定等に伴う人件費の増額
	介護保険・事業勘定（第3号）		60	4億2,957	
	簡易水道事業（第3号）		101	3億3,502	
	公共下水道事業（第3号）		44	3億3,709	

令和6年第4回定例会 審議した議案と各議員の賛否

※織田忠司議長は採決には加わりません。

令和7年第1回臨時会 審議した議案と各議員の賛否

※織田忠司議長は採決には加わりません。

一般質問



5人の議員が6項目について質問

■ 一般質問とは ■

議員が村政全般にわたり、執行機関（村長など）に対して事務の執行状況や将来の考え方について所信を問うこと、または報告や説明を求め疑問をただすことです。

更別村議会では、議員があらかじめ議長に質問の趣旨を知らせる「通告制」により、議員はその内容に沿って質問します。一問一答方式とし、質問時間は1人90分以内、質問回数は1項目3回までとしています。

*議会広報では、1回目の内容のみ答弁を要約して掲載しています。

詳しい内容は議会中継（更別村議会Youtubeチャンネル）、または会議録をご覧下さい。

動画は
こちら

ページ	質問事項	質問議員	
6	公営住宅等の今後の管理体制について	荻原正	12/16 午前
7	行政区運営規則の早期是正と町内会活動の関わりについて	安村敏博	
8	企業版ふるさと納税に対する利益供与の禁止について	斎藤憲	
9	役場職員におけるメンタルヘルス対策について	小谷文子	12/16 午後
10	更別スーパービレッジ構想の移動サービスについて		
11	更別スーパービレッジ構想における事業「農村エコシステム」および「分散ストレージシステム」について	尾立要子	

*紙面の都合上、小谷議員と尾立議員の順序を変更しています。

公営住宅等の今後の管理体制について

長——長寿命化の視点で管理し、建替えは劣化状況により判断する



荻原議員

荻原議員 本村では現在、63
棟279戸の公営住宅等の管理を行っています。又、賃貸住宅促進事業として民間住宅が平成14年から建設が始まり、昨年度までに30棟167戸の建設が行われました。民間住宅が建設される以前は村内の賃貸住宅のほぼ全てを村で建設しており、建設後30年を過ぎた住宅も145戸を数えています。管理戸数が多いということは維持管理費も多額になり、民間賃貸住宅に建設費を補助し、村の維持管理費を極力抑えることが得策とも考えられます。しかしながら、住宅に困窮する低額所得者に低額な家賃で入居ができる公営住宅等を供給すること

共賃貸住宅に代わって民間賃貸住宅の建設を促進する必要もあると考へます。併せて住民の高齢化率が進む中、高齢者向け賃貸住宅の在り方や住宅管理に関する職員の負担軽減策等、次の3項目について村長の考へをお聞きします。

1. 民間賃貸住宅の建設促進を促し、官民でバランスの取れた住宅戸数を確保するため、老朽化した公営住宅等の建替え等の考え方について。
2. 低額な家賃で入居を望む高齢者世帯等に対し、シルバーハウジングの増設や高齢者仕様の住宅改修等、住環境の整備をどのように進めるか。
3. 職員の業務多忙な状況を回避するために、住宅管理部

分における指定管理者制度導入の考え方について。

的な点検や修繕を実施してきましたところです。これにより、現状では概ね良好な状態を維持していますので、今後も居住性の低下等を未然に防ぐよう長寿命化の視点を持つて、既存住宅の維持管理を実施していくことと致します。

また住宅の建替え時期については、これまでも老朽化等による劣化状況の程度を基に判断してまいりましたが、今

%となっています。近年は数戸の空室がある状況が続いていますが、今後は高齢化率の上昇が見込まれ、高齢者向け住宅の確保は重要であると考えています。そのため、平成24年以降に建替えを行つた分営住宅は、バリアフリーやすりの設置など、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインを採用し整備を進めてきたところです。今後も建替えたところです。

り38年が経過、最も新しいのは令和2年に建築したものとなっており30年から70年と期間が設定されており、今年度末で耐用年数が超過する住宅は23棟94戸となつています。

的な点検や修繕を実施してきましたところです。これにより、現状では概ね良好な状態を維持していますので、今後も居住性の低下等を未然に防ぐよう長寿命化の視点を持つて、既存住宅の維持管理を実施していくことと致します。

また住宅の建替え時期については、これまで老朽化等による劣化状況の程度を基に判断してまいりましたが、今

%となっています。近年は数戸の空室がある状況が続いていますが、今後は高齢化率の上昇が見込まれ、高齢者向け住宅の確保は重要であると考えています。そのため、平成24年以降に建替えを行つた分営住宅は、バリアフリーやすりの設置など、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインを採用し整備を進めてきたところです。今後も建替えたところです。

後も同様の考え方により決定してまいります。

%となっています。近年は数戸の空室がある状況が続いていますが、今後は高齢化率の上昇が見込まれ、高齢者向け住宅の確保は重要であると考えています。そのため、平成24年以降に建替えを行つた分営住宅は、バリアフリーやすりの設置など、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインを採用し整備を進めてきたところです。今後も建替えたところです。

の際には同様の住環境とし、シルバーハウジングのみならず全ての公営住宅において高齢者等が安心して生活できる住宅の整備を行つてまいります。

ご質問の3点目、指定管理者制度については、管理戸数が多い都道府県などで導入は確認できますが、小規模自治体での導入は進んでいない状況です。理由として、入居者からの要望等に対するきめ細やかな対応への懸念、職員の負担軽減や経費削減などの効果には一定規模の戸数が必要なことがあります。

本村においても過去の検討では見送つており、制度の導入は現時点では予定していないところです。

役場職員におけるメンタルヘルス対策について

村長——個の視点での観察と物理的ストレス要因の軽減に取り組む



小谷議員

小谷議員 総務省は令和6年3月「令和5年度地方公務員のメンタルヘルス対策の推進に関する研究会」の報告書において、令和4年度の1ヶ月以上の長期休職者は、10年前と比較すると約1・8倍に増加し、特に20代、30代の休職率が高いことを発表しました。

また厚生労働省でも、「2024年版厚生労働白書」を報告し、その中で「こころの健康」の最も高いリスクは、病を引き起こすようなストレスであり、20年前との比較で3倍に増加との結果で、何れも看過出来ない現代の実情と認識した次第です。

次に更別村においての直近4年間（令和2～5年度）に

おける途中退職者数は15名と伺い、自「都合ではあるものの、本村のみならず全国的な人口減少のおり、職員の人材不足の懸念や採用が内定されても辞退される昨今。本村での行政機能を適切かつ円滑に機能させるべく、これらを踏まえて3点村長に質問させていただきます。

1. 村は、職員に向けてストレスチェック診断を行っておりますが、この調査や結果から見えてくる役場としての課題や対応等、メンタルヘルス調査の見解を伺います。

2. 職員の健康状態や職員自身が抱える問題が原因となり、長期休職者となり得る場合も想定されますが、村として休職や職場復帰と復帰後に向けての方策の見解を伺います。

3. 仮に長期休職者が発生した場合は、一時的に職員数が減りますが、業務が遅滞なく遂行されるための対応策の見解を伺います。

141人、実施率は99・3%

となっています。結果については委託業者が分析しており、「精神健康度はやや改善傾向では、量的負担、質的負担、職場環境、上司のサポート不足のストレスが大きい状態である」、「待遇・処遇・組織ストレスの結果は、目立つた悪化は認められない」といった分析結果の報告を受けています。地方公共団体を取り巻く環境はますます複雑なものとなり、職員に求められる業務も多様で高度なものとなり業務量も増加することが避けられません。このような状況で職員は様々なストレスを感じており、心身にダメージを受けることもあります。職員のメンタル不調は組織に重大な影響を与えることから、不調の自覚が強い個人がいいか、個の視点での状態観察をしておくことが重要と考えています。また、職場のストレス要因では、仕事量の適正配分や上司と仕事のやり方・進め方について話し合う機会を増やしたり、物理的な環境ストレスを排除するといった

取り組みにより職員のメンタルヘルスケアを推進してまいりたいと考えています。質問の2点目ですが、メンタル不調を訴える職員に対しでは、状況によつては主治医全衛生法が一部改正され、心理的な負担の程度を把握するための検査、いわゆるストレスチェックを実施することなどを事業者の義務とする制度が導入されました。

本村ではストレスチェックを含め、職員の電話、メールによる相談、個別面接による相談、研修・講演など、メンタルヘルスに関する業務を委託により実施しています。

ストレスチェックについては、更別村職員ストレスチェック実施要綱を制定し、対象職員や面接指導、受検方法などについて定めるとともに、毎年実施計画において日程や調査票などを定め実施しているところです。

質問の1点目については、状況により対応は異なるものと思いますが、職員が休職となつたことにより、新たな職員を採用することは、その後の定員管理に影響することから、現実的には難しいものと思っています。したがつて、限定的な人事異動や業務調整、期間を区切つての会計年度任用職員の任用といった方法で対応せざるを得ないものと考えています。

更別スープーバービレッジ構想の移動サービスについて

村長——配送ロボットは『ハコボット』に代わり冬季実証を継続する



星立議員

尾立議員 村民の間では更別
スーパー・ビル・レッジ構想の情報
が十分行き渡っていないよう
です。11月22日にはソーシャ
ルナレッジバンク合同会社（S

當のものと導入されたと理解しております。この初代デリロには、具体的にいくら費用がかかり、どれくらいの期間に何回運用されましたか。また、昨冬には後継ロボットのお披露目がありました。夏には、雪道での運用が課題でした。夏には稼働していたのでしょうか。情報公開されたSKB社の事業費用項目のどの部分、そしていくらが後継ロボットの関

事務務調査のため小学校を訪れた際には、学校側では児童が放課後図書室を利用することに、プライオリティが置かれていませんでした。理由をお尋ねしたところ、スクールバスで早々に自宅に送り届ける必要があるとのことでした。そこで提案ですが、現行の自動運転バスは、新たに学校の帰宅児童のためにも運用できますか。

り車両認証が遅れ、デリロではなくハコボットというロボットによつて冬期の実証を行つうに留まり、夏の実証は行つていません。

に1時間に1本、役場、診療所、マナカ、ポピーマートへの定期運行を行つていま
す。事業費は令和4年度の初期設定費用とランニング費用に、806万7216円、車両費用はレベル2の機器架装とテスト運用併せて3414万2333円です。令和5年度からの運用費はす
いすい村内移動の480万円の内、自動運転費用は

村長 1点目、自動配達ロボットについて、初代デリロの令和4年度の事業期間は9月27日から翌年3月15日、また運行ルートの設定とテスト及びレンタル経費について、運行ルートは1382万7千円となります。期間内において、運行ル

自動配達ロボットによるサービスについては、国の規制緩和の検討状況と冬期の問題解決の目途がたつまで実証を繰り返していくことになります。

172万円でした。

1. 構想開始時、広報写真に
入っていた自動配達ロボット
「デリロ」は、主に買い物に
おいて移動が困難な高齢者の
ために自動で商品を配送する
目的で、更別村スープービレ
ツジ協議会及びSKB社の運

について改めてご説明下さい。
こちらも、SKB社事業費について、当事業のスーパー・ビレッジ協議会当初からの事業費との関わりも含め準備から運行までお伺いしたいです。先日エアコンに関する所管

ートでの実証を1か月程度重ね実装し、視察対応の利用が5回、実際の利用が5回で合計10回の運用としています。令和5年度は、デジタル田園都市国家構想ソサエティ5.0タイプへと移行し、道路交

ととしています。酪農家の負担軽減とコスト削減に向けて実装の検討をしてまいります。

2点目の自動運転バスの利用方法については、説明会や行政区懇談会等で説明を行い、時刻表を周知して

利用は先生の負担が増え、学校管理上難しいとの回答を得ておられますので、帰宅児童のための自動運転車両の利用は定期運用による時間調整、安全確保の観点から難しいと考えています。

通法の改正に伴う遠隔小型操作車として運行、課題である冬期運用について実証を行うものとしていました。同年度の道路交通法改正の影響により車両認証が遅れ、デリロではなくハコボットというロボットによつて冬期の実証を行つに留まり、夏の実証は行つていません。

情報公開されているSKB社の事業費項目では、共助型地域交通物流システムでの開発実証となり、事業費は9635万円、ハコボットの冬季実証費用は154万円、購入した車両はありません。自動配送ロボットによるサービスについては、国の規制緩和の検討状況と冬期の問題解決の目途がたつまで実証を繰り返していくことになります。

このほか、JAさらべつの協力により乳検の検体をドローンで輸送する実証を行つこととしています。酪農家の負担軽減とコスト削減に向けて実装の検討をしてまいります。

2点目の自動運転バスの利用方法については、説明会や行政区懇談会等で説明を行い利用方法、時刻表を周知して

いるところです。パンフレットは役場とさらで配布し、利用者の方には説明させていただきます。利用方法に変更はない、毎週水曜日の午前中に1時間に1本、役場、診療所、マナカ、ポピーマートへの定期運行を行つていまます。事業費は令和4年度の初期設定費用とランニング費用に、806万7216円、車両費用はレベル2の機器架装とテスト運用併せて3414万2333円です。令和5年度からの運用費はすいすい村内移動の480万円の内、自動運転費用は172万円でした。

3点目について教育委員会に確認したところ、スクールバスは下校時間に合わせて運行しており、児童が一時的にバスを待つ場合、図書室を利用することがあります。が、放課後の居場所としての図書室利用は先生の負担が増え、学校管理上難しいとの回答を得ておりますので、帰宅児童のための自動運転車両の利用は定期運行による時間調整、安全確保の観点から難しいと考えています。

更別スープーバービレッジ構想における事業「農村エコシステム」について および「分散ストレージシステム」について

村長——スマート農業の推進として①無人化に向けた新技術の開発、 ②データ量増大に対応する保管場所の構築

尾立議員 更別S・V構想における「国際競争拠点」を形成する新たな農村エコシステムの構築」と「ブロックチェーンを活用した分散ストレージシステム」の整備についてお尋ねします。公開されたSKB社のこの二つの事業には、更別村から50%の助成金が入られ正在して、それぞれ、國からの助成金と合わせると9652万円、2571万円の大型事業となっています。これらは、どのような事業なのでしょうか、内容をお聞かせください。

また、どれくらいの雇用を更別村に産み、更別村にどれほどの税収をもたらすことになるのでしょうか。さらに、「国際競争拠点を形成する新たな農村エコシステムの構築」事業では、将来的にGPSを使つた無人トラクターの活用が前提とされているようですが、第1に、集中管理はうま

くできるのでしょうか。第2に、農家の皆さんにとってはどのようなメリットがあるのかなど、皆さんにヒアリングはできていますでしょうか。

第3に、作業中に壊れた時の対応などはどうらの団体が担うのかをはじめ、どのように組み立てされていますか。

村長 本村では、スマート農業の推進から新たな「農村エコシステム」の構築を進めています。内容については、「完全無人化畑作・酪農地帯の開発」として、GPSやGNSSを活用した作業機の自動制御、散布ノズルの自動閉鎖や播種機のセンサー開発を進め、効率的な農作業を可能とするものです。

増加への対応と生産性の維持を目指すものです。

「ブロックチェーン(データを鎖のように連結させる技術)」を活用した分散ストレージシステム」については、AI活用やNFT(代替え不可能なデータ)データの保管場所が重要であり、またデータ量の増加に伴い保管費用も増大することから、そうした状況に対応するものです。

また、ISO-BUS対応機器の開発実証や技術者の育成、オートメーション化による省力化で農業の魅力を高め、農業者数が減少した場合にも残

らず生産性を維持することを目的にしています。

農業従事者は2015年の847人から、2040年に367人に減少すると予測されており、データ活用と循環型農業へのシフトが求められるため、ロボティクスや未来技術の導入により、コスト

かかります。また、更別ID保持者の私書箱として利用した実証、役場と上更別福祉館を結ぶセキュアなネットワークを構築しデータを分散保管する仕組みを構築します。

首都圏の企業に運営業務を担当いただき、更別村に営業所を設けるなど企業誘致も図つてまいります。これらの取組みを通じて、農業生産性の維持と地域経済の活性化、また企業誘致と雇用の増による村全体への利益につながる事業計画としています。

次に雇用と税収について、本事業は「共助型地域交通物流システムの構築」など4つの事業全体で1社の企業誘致を目指しています。雇用について一概には言えませんが、目標としては村人口の1%である30名の増を目指したいと考えています。人口増に伴う税収入は住民税、固定資産税といった村税が増加、例えば住民税であれば、年収300万円の場合には年間の税額は約15万円程度になります。

次のご質問、無人トラクターは市販されており、機械メーカーへ整備工場が対応しています。

委員会レポート

移住定住施策の今後の方針について

総務厚生・産業文教常任委員会（合同調査）

（内容は一部要約）



上富良野町 こどもセンターを視察

▼調査期日 10月15～16日

▼調査場所 上富良野町、東川町

▼調査の結果

○15日 上富良野町
人口約9700人。自衛隊駐屯地は道内5番目の規模で、農業と観光、自衛隊が町の3本柱である。またラベンダーとサッポロビールとの繋がりがあるホップ栽培が有名。

○15日 東川町
人口約8600人で近年は人口が増加傾向。道内住み心地ランディング第1位。全国でも珍しい地下水の町であり、写真の町としても有名。旭川家具の3割を生産する家具の町でもある。

○16日 東川町
この調査は、本村が来年度より奨学金返還支援制度創設を予定していることから、先進地の上富良野町に赴くとともに、住み心地第1位の東川町の施策と、その理由を学ぶため、合同調査の対象としたところである。

調査事項

移住定住施策の今後の方針について

（1）奨学金返還支援制度

- ・中小企業の人材確保のため令和3年度に制度を創設。昨年度は、4名に40万3000円を助成した。35歳未満の方を対象に、支援額は月額上限2万円、最大72万円（最長3年間）である。

- ・農業後継者も対象であるが、町の「いい手サポート奨励補助」が月2万円であり、いずれかの選択は可能。

（2）移住定住施策について

- ・新規就農を目指す地域おこし協力隊を、令和5年度に3名、6年度に2名を採用した。土地の取得など3年後の就農には課題が残っている。

- ・雇用の創出として、新規開業・起業に支援し、昨年度は10件に助成した。現状では企業誘致も難しい。

- ・冬場のスキー場利用者や海外からの移住者などは多くなく、宿泊のキャバシティ（ベッド数が少ない）が課題。

・空き家については、アパート需要が多く毎年新築されており、そのため古いアパートの空き室が増えている。

（1）移住定住施策について

- ・土地開発公社の分譲価格は、1区画100～130坪で、坪5万円前後。土地購入時の町助成は行っていない。
- ・町内の外国人は500人、内300人が留学生、100人が外国语指導助手などの関係者で占めている。
- ・日本語学校については、韓国人の元留学生の要望に応える研修事業として始めた。留学生の受け入れにより、経済が循環し、町に活気が戻ったことや子供たちとの交流にも効果があつた。

・写真文化について、町とボランティアでやり始めたところ成功し、40年続いている。そこから「写真甲子園」が生まれた。企業の協賛を得て、町も担当課を設置、イベントではプロ・アマ問わず全国から来町し交流している。

・東京での移住フェアに移住者も参加してもらい、リアルな情報を発信した。

（2）人口減少対策の先駆けについて

- ・30年前、人口7000人を割り込んだが、小規模校などの周辺にアパート建設の補助や宅地造成を進めたことから、学校・集落の維持に好転した。

○調査から学ぶ移住定住の方策

この調査は、本村が来年度より奨学生返還支援制度創設を予定していることから、先進地の上富良野町に赴くとともに、住み心地第1位の東川町の施策と、その理由を学ぶため、合同調査の対象としたところである。

共有出来たことが有益であつた。最後に、様々な取組をお聞かせいただけたことに感謝し、調査から得たことを、本村らしい独自施策に反映される様、望むところである。



東川町 共生プラザ「そらいろ」を視察

調査事項 福祉の里温泉の利活用における課題と今後の方針について	
総務厚生常任委員会	
▼調査期日 11月5日	▼調査の結果
(1) 現状について	<p>・本村では、国の高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略等に併せて「福祉の里構想」を策定、構想の中核施設として老人保健福祉センター（福祉の里温泉）を建設、平成6年4月に供用開始となつた。</p> <p>・温泉の泉温は17・9℃、泉質はナトリウム塩化物冷鉱泉。入浴料は大人450円、村内65歳以上等は100円。</p> <p>・温泉の利用状況の推移</p> <p>直近5年間の平均利用者数は、年2万9920人（経常経費は1701円／人）であり、特に令和元年度と5年度との利用者数比較では、668人（1日当たり22・1人）の減である。</p> <p>・修繕費の直近5年間の平均は、約60万円。また、「ボイラーの更新は「温泉設備等改修工事」として、約10年毎に実施している。</p>
調査事項 義務教育施設（小中学校）におけるエアコンの設置状況及び未設置箇所の確認について	
産業文教常任委員会	
▼調査期日 10月29日	▼調査の結果
(2) 課題と今後の方針について	<p>・参考に、村公共施設等総合管理計画における今後の見通しについて、40年間の更新費用は年当たり20・1億円で、人口減少を見据えた整備更新等を基本的な考え方とするなどの説明を受けた。</p> <p>課題としては温泉が30年経過しておらず、①利用者数の減少と維持管理費、修繕費の増加、②突発的な故障の増加とともに多額の改修費が想定される、</p> <p>③村民には公衆浴場として定着した施設であり、村外者には温泉施設として利用されていること等があげられる。</p> <p>今後の方向性としては、多額の改修費が想定される温泉施設を温泉として維持する必要性の早期検討、温泉の維持が困難であれば、公衆浴場としての継続とするのか、更には継続する場合、維持管理費を想定した現有施設の存続の是非、一方で「温泉」がある魅力ある村としての付加価値の検討も必要である。他方で、大規模災害時には住民の共同浴場としての役割も重要な意見も付け加える。</p> <p>「老人福祉」という当初の取組自体は十分理解出来るものの、将来の財政規模に見合った施設に、との難題を避けて通れない、総合的に勘案する時期に来ている。よって、村民目線を大切にしながら議論の場を持つとともに、温泉の在り方を早急に論議・検討を望むものである。</p>
調査事項 徒の危険防止のため窓の開閉はできないなど、改善の必要を強く認識した。体育館に関しては、時間割の検討での調整（更別小）、冷風機を大型扇風機として利用・プールまたは教室活動に切り替え（上更小）、室温に応じて使用（中学校）とのことであった。	
義務教育施設の猛暑対策としてエアコンが設置されたことは一定の評価ができるとともに、夏休み期間の見直しもされており、現場の改善は最低限はなされている。しかし、現場を担当先把生との間に認識の差があり、快適な教育環境の確立と予算措置等の確保が噛み合わず、試行錯誤が続いている。	更には、少子化に伴う小学校と中学校の統合による義務教育学校化への検討、各学校の施設老朽化等、トータルな見地から展望する必要性も無視できない。こうした中で、児童生徒並びに現場の先生方の健康保持・教育向上が懸念されることから、早急な協議が必要である。方向性としては、特別教室のいくつかに焦点を絞り、順次エアコンを設置することが考えられる。
義務教育施設の猛暑対策としてエアコンが設置されたことは一定の評価ができるとともに、夏休み期間の見直しもされており、現場の改善は最低限はなされている。しかし、現場を担当先把生との間に認識の差があり、快適な教育環境の確立と予算措置等の確保が噛み合わず、試行錯誤が続いている。	更には、少子化に伴う小学校と中学校の統合による義務教育学校化への検討、各学校の施設老朽化等、トータルな見地から展望する必要性も無視できない。こうした中で、児童生徒並びに現場の先生方の健康保持・教育向上が懸念されることから、早急な協議が必要である。方向性としては、特別教室のいくつかに焦点を絞り、順次エアコンを設置することが考えられる。
■まとめ	徒の危険防止のため窓の開閉はできないなど、改善の必要を強く認識した。体育館に関しては、時間割の検討での調整（更別小）、冷風機を大型扇風機として利用・プールまたは教室活動に切り替え（上更小）、室温に応じて使用（中学校）とのことであった。
■まとめ	徒の危険防止のため窓の開閉はできないなど、改善の必要を強く認識した。体育館に関しては、時間割の検討での調整（更別小）、冷風機を大型扇風機として利用・プールまたは教室活動に切り替え（上更小）、室温に応じて使用（中学校）とのことであった。

C
グループ

テーマ ショッピング

主旨 ⇒ 買い物を楽しみながら村の良さを知ってもらう。人を集めて村のお金を増やす!

具体案 ⇒ ショッピングモールやアニメパークなどを作り、稼いだお金で過疎化を止める、親が仕事の時に子どもを預かる「親レンタル」の仕組みを作る!

議員コメント ⇒ ①夢を持って考えて貰えて、素晴らしい。実現については悩ましいところだが、諦めずに考える過程は大切です。
 ②村のお金を増やすという目的は大切なこと。自分は財政破綻した夕張市出身であり、皆さんの案は参考になりました。

D
グループ

テーマ 人を集める

主旨 ⇒ 今住んでいる若者を大切にしながら、十勝管内の方を中心に村に人を集め、定住者を増やす!

具体案 ⇒ スーパーに道の駅とフードコートを入れる、村で働く人を増やすために補助や支援を行う、規格外野菜を販売する!

議員コメント ⇒ ①A～Cグループを総まとめしたような案で、現実を把握した、実現の可能性が高い案だと思う。この気持ちを忘れないでほしいです。
 ②「若者を大切に」という皆さんのお意見を聴いて、中学生から起業して稼げるようになれば、若い人が更別に残って仕事ができると思いました。

この日は織田議長の進行により、4つのグループに分かれて「更別村の活性化案」を提案。生徒の皆さんには、社会科担任の松林教諭の指導のもと、学期末テストの合間を縫つて、グループ内での話し合いやパワーポイントのスライド作成など、発表の準備を重ねてきました。

発表内容は、村の強みと弱みを踏まえ、提案と課題だけでなく、実現に向けた解決策や自分たちに何ができるのかということまで考えられており、各議員は真剣な表情で聞き入っていました。

更別中央中学校3年生（生徒32人）が社会科公民の授業として、12月18日に議会を訪問し、議員との意見交換を行いました。

私たちが村の活性化について考えました

更別中央中3年生 議会訪問



A

グループ

テーマ 観光

主旨 ⇒冬に使われない土地を利用して、観光スポットを増やし、人を呼び込むことで魅力が広がり、定住者が増える!

具体案 ⇒高規格道路降り口にパーキングエリアの建設、また新たにタワーや「雪の道の駅」などを作り、SNSで発信する!

議員コメント ⇒ ①高規格道路のパーキングやシンボル的なタワーなど、良い発想だと思う。SNSでの発信など、中学生の力でぜひ村をPRしてください。②夢のあるアイディアがあって大変良い。反面、実現にはお金がかかるので、何が必要で共感を呼ぶものか、もう一步踏み込んで考えてみて下さい。

B

グループ

テーマ イベント

主旨 ⇒近隣の人たちを呼び込み、経済を活性化し、更別を活気あふれる村にする!

具体案 ⇒福祉の里温泉を活用した「1年間温泉計画」、新スポーツ「どんちゃ」「どんころin snow」などで集客を図る!

議員コメント ⇒ ①「近隣の人を呼ぶ」という現実的な設定がよい。イベントは予算の回収も大事だが、自分たちが楽しむことも必要。卒業後、ぜひ皆さんでやってみてください。
②「高齢者が多いこと」は言い換えると、若い人がいないということで、なぜそうなるのかを話し合ってくださいと、私たちの活動のヒントにもなると思いました。



コメントする太田議員



発表するDグループの皆さん



河合柊弥さんの代表挨拶



発表するAグループの皆さん



議会訪問を終えて

★更別中央中学校3年生 河合柊弥さん

今日は私たちのアイディアを聞いて下さり、ありがとうございました。この中で、もし実現できる可能性があれば活用していただきたいと思います。

★更別中央中学校 松林一彦 教諭

生徒達が更別のことを考え、真剣にお話を聞きアドバイスをくれる議員の皆様との交流は、とても価値があり、地方自治に参画する大きな機会です。この授業を通し、生徒が成人した時に、今以上に愛着を持てる故郷になればと思います。

織田議長様をはじめ、議員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

○織田議長

課題を的確に捉えた純粋な目線からの提案が素晴らしい、今は実現が難しいアイディアでも、改めて考えた時に発想のきっかけやヒントになると思いました。皆さんからの意見や提案を、今後に活かしたいと思います。

○尾立産業文教常任委員長

中学生の皆さんが村の活性化に取り組もうとする真摯な姿勢と、若い人にしか打ち出すことができないストレートな現実を変えていくこうとする表現にはっとさせられる発表が満載の議会訪問でした。勇気づけられました。

○太田議会運営委員長

皆さんが更別に愛情を持っていることがよくわかりました。今日のアイディアの実現と同時に、若者が更別に残るためにどうすれば良いか、ということが私たち議員に課せられている課題と感じました。

住民の皆さんに開かれた議会を目指し、日頃の議会活動の報告及び議員と村民の皆さんとの意見交換の場として、「令和6年度 議会報告会と住民懇談会」を開催しました。

懇談会は2会場（別会場：老人保健福祉センター、上更別会場：上更別福祉館）で行い、1回目は昨年11月14日に、2回目は1月16日に実施しました。このうち、1回目の別会場では、「スーパービレッジ構想の成果や現状について」「ゴミの分別が複雑で高齢者には支援が必要では」「免許返納後の移動手段について、村外に行く手段がない」などの話題について議員が現状を答えるなど、活発な意見交換が行われました。

参加者の皆様からいただいた貴重なご意見は、今後一般質問等、議員活動の参考とさせていただきます。

11/14 議会報告会と

1/16

住民懇談会を開催しました



昨年11月14日 上更別福祉館の様子

◆ 次回の定例会は ◆

3月11日(火) 午前10時開会予定

【議会を傍聴しませんか】

議会での議論を通じて、村の現状や課題を知ることができます。村政は皆さんの日常に密着したものですので、お気軽にお越しください。



*インターネット中継もご利用ください！

議会日誌

3日	更別村文化賞・スポーツ賞等表彰式に議長出席	4日	議会運営委員会
8日	総務厚生常任委員会	9日	全員協議会
13日	更別小学校開校百周年記念	10日	第4回議会定例会
18日	学習発表会に議長出席	11日	更別中央中3年生議会訪問
23日	十勝町村議會議長会議員研修会に全議員出席	12月	に全議員出席
26日	国大会に議長出席	1日	1月
19日	第68回町村議會議長全員協議会	2日	議会運営委員会
19日	議会報告会と住民懇談会	3日	更別消防団出初式に議長出席
14日	広尾町議会議員等研修会に議長出席	4日	第1回議会臨時会
14日	十勝毎日新聞社グループ年賀会に議長出席	5日	十勝毎日新聞社グループ年賀会に議長出席
13日	議長出席	6日	議会運営委員会
13日	第18回2村議会議員交流会に全議員出席	7日	商工業永年勤続優良従業員表彰式並びに新就業者歓迎式に議長出席
13日	十勝圏複合事務組合議会、十勝中部広域水道企業団議会とから広域消防事務組合議会に議長出席	8日	議会報告会と住民懇談会に議長出席
13日	市町村行政懇談会及び新年交礼会に議長出席	9日	議会運営委員会（広報）
13日	長出席	10日	村づくり懇談会に全議員出席

▼輝かしい新年を迎え、村民の皆さんも健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。
 ▼昨年はパリオリンピックでの日本人選手や大谷翔平選手の活躍等により、多くの希望と感動が届けられました。しかししながら、国内においては能登半島地震や追い打ちをかけるような豪雨災害の発生など様々な悲しい出来事もありました。その中でも私は北九州市で発生した女子中学生刺殺事件に強い憤りを感じています。友達とファーストフード店内で見知らぬ男にいきなり刺され、かけがえのない尊い命を奪われたこの事件に多くの方が衝撃を受けたことだと思います。しかもその犯人は児童虐待の現場には、子ども達の健やかな育成に努めるはずの地域のあり方を改めて考えさせられる事件であつたと思います。
 ▼子ども達を守り、皆様と共に住みやすい村づくりを推進するため、我々議員も力を尽くして参りたいと思います。



（荻原委員
記）